

アルミ・ビューティー 洗淨マニュアル

1. アルミ・ビューティーの用途

- ・ アルミサッシ、アルミ手摺り、アルミ笠木
- ・ アルミパネル、アルミ格子
- ・ ステンレス手摺り、ステンレス枠、ステンレス看板、ステンレス支柱
- ・ 鏡面ステンレス
- ・ ラスタータイル

2. 適応する汚れ

- ・ 煤煙などの油、水アカ、サビ
(樹脂塗料や接着剤、ガムなどの人工付着物は分解できません)

3. アルミ・ビューティーの特徴

アルミ・ビューティーは、雨が直接当たる外壁に付帯するアルミやステンレスに付着した煤煙による油汚れや水アカなどの汚れを落とす洗剤で、油分解作用を持つ茶葉を主成分とする植物性の酸性洗剤です。

4. 準備物

洗淨を行う現場には、以下の物をご用意下さい。

なお、汚れ分解した後、分解した汚れを洗い流さなくてはならないため、現場に水道水があるかを事前に確認しておいて下さい。

また、高圧洗淨機が電気稼動のタイプである場合は、電源があるかも事前に確認しておいて下さい。

■ 洗淨用具

- ・ アルミ・ビューティー（18Lまたは4L）
- ・ 洗車用スポンジ（市販商品） 人数分
- ・ スコッチブライト等のナイロンタワシ（市販商品） 人数分
- ・ ゴム手袋（市販商品） 人数分
- ・ バケツ（市販商品） 人数分（洗剤用と水用）
- ・ 外壁タイル洗淨であれば高圧洗淨機
- ・ 外床タイル洗淨であればポリッシャーもしくはデッキブラシ



5. 洗淨の準備

① 保護養生

アルミ・ビューティー（以下、本剤という）は酸性であるため、洗淨する箇所の周囲に下記ものがある場合、直接かかると変色、白濁してしまう可能性がありますので洗淨作業に入る前には養生し、保護して下さい。

- 植木や花壇、植栽などの植物
- 洗淨付近に停めてある自動車

② 洗淨および希釈倍率の決定

必ずテスト洗淨を行い、材質に対する本剤の影響（腐食、変色、光沢消失等）を確かめて下さい。

この段階で本剤を原液から3倍程度まで清水で希釈し、適切な希釈倍率を決定して下さい。

【希釈目安】

- ・ アルミサッシ、アルミ手摺り、アルミ笠木：原液使用
- ・ アルミパネル、アルミ格子：水で2～3倍希釈
- ・ ステンレス手摺り、ステンレス枠、ステンレス看板、ステンレス支柱：原液使用
- ・ 鏡面ステンレス：水で2倍希釈
- ・ ラスタータイル：原液使用

6. 洗淨の手順

① 準備物を用意し、ゴム手袋を着用する。

準備物はブルーシートの上に設置し、本剤の移し換えは必ずブルーシートの上で行って下さい。



② 本剤を良く振った後、バケツに底から5cmほど入れ、適切な希釈倍率で水を入れて希釈する。

以降、本剤が入っているバケツはブルーシートの上以外には置かないようにして下さい。

③ 本剤を入れたバケツにスポンジを浸し、本剤が滴り落ちない程度までスポンジを絞ります。

④ そのスポンジで、洗淨する箇所を塗り上げます。

滴り落ちる本剤をバケツで受けながら、スポンジで汚れているアルミやステンレス面を塗り上げます。汚れがひどい箇所は、数回塗り上げていくと次第に汚れが綺麗になっていきます。

ヘアラインステンレスでスポンジでは落とすきれないサビは、市販のスコッチブライトを使用してヘアラインに沿って擦り上げてください。但し、鏡面ステンレスには傷が付きますので決してスコッチブライトを使用して擦らないで下さい。ラスタータイルでスポンジでは落とすきれない汚れは、市販のスコッチブライトを使用して擦り上げてください。

スポンジで汚れ（エフロレッセンスやアゴ部分の固化した黒い汚れなど）が落とすきれない場合は、市販のスコッチブライトを使用して擦り上げて下さい。

- ⑤ 汚れが落ちたら、分解後の汚れを高圧洗浄して下さい。
ラスタータイルの場合は水で高圧洗浄して下さい。

7. 効果的な洗浄方法

- ① 洗浄作業は建物の上から下に向けて行います。なお、ゴンドラ作業の場合は、逆になる場合もあります。
- ② 水でかなり濡れている場合は、そこに本剤を塗ると本剤が汚れを分解する前に流れてしまいがちですが、多少水で湿っている箇所であれば作業に支障はありません。
- ③ 水で洗浄できない物件（通行人が多いなど）の場合は、濡れた雑巾で本剤と分解された汚れを拭き上げなくてはなりません。拭き上げの場合は、本剤が残ると白い粉が残るので、十分に拭き上げてください。

8. 使用上の注意

- ・ 必ず作業前に保護メガネ・ゴム手袋等の保護用具を着用して下さい。
- ・ 保護養生しなくてはならないものは、必ず保護養生して下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合は、水または温水で洗い流した後、石けんで十分に洗って下さい。痛みやかぶれなど異常を感じた場合は、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。目に入った場合は、ただちに大量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
また誤って飲み込んだ場合は、ただちに大量の流水で口をすすぎ、できるだけ早く医師の診下さい。
- ・ 通行人等の第三者への汚水の飛散に注意して下さい。
- ・ 塩素系洗剤等とは併用及び混ぜないで下さい。
- ・ 直射日光を避け、30℃以下の場所で保管して下さい。
- ・ 本来の用途以外に使用しないで下さい。